

ツインシティ倉見地区 まちづくりニュース

このまちづくりニュースは新幹線駅の誘致とツインシティのまちづくりの情報をお知らせするものです。

ツインシティ倉見地区まちづくり報告会を開催しました

現在のまちづくりへの取り組み状況や県との調整状況をお伝えするため、町職員と県駐在事務所の職員が出席し、8月27日(日)、28日(月)に新駅周辺整備検討区域の地権者の方を対象として「ツインシティ倉見地区まちづくり報告会」を開催しました。両日合わせて37名の方に参加していただきました。

当日の主な内容はつぎのとおりです



これまでの取り組み経過

～第7回線引き見直し～ ※線引きの説明については次頁をご覧ください。

都市計画の基本的な方針等

(都市計画法第6条の2)

●都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

- ・都市計画の目標
- ・区域区分の決定の有無及び定める際の方針
- ・主要な都市計画の決定の方針(都市計画法第7条)

●区域区分

- ・市街化区域と市街化調整区域との区分(都市計画法第7条の2)

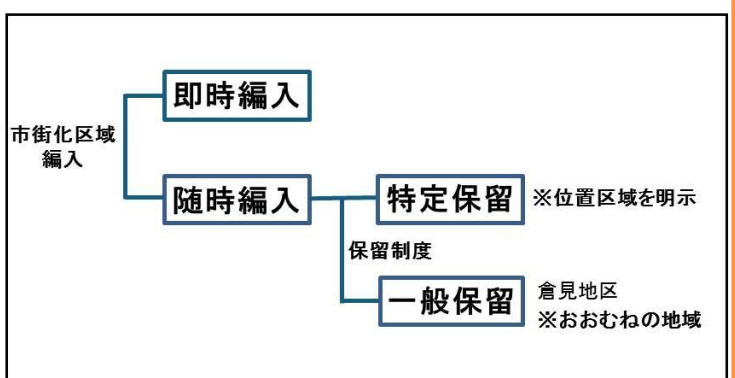
○交通施設の都市計画の決定の方針
駅前広場
→JR東海道新幹線新駅北口及び南口の駅前広場
については、計画の具体化を図る。

※線引き見直しは神奈川県が行う都市計画手続きです。

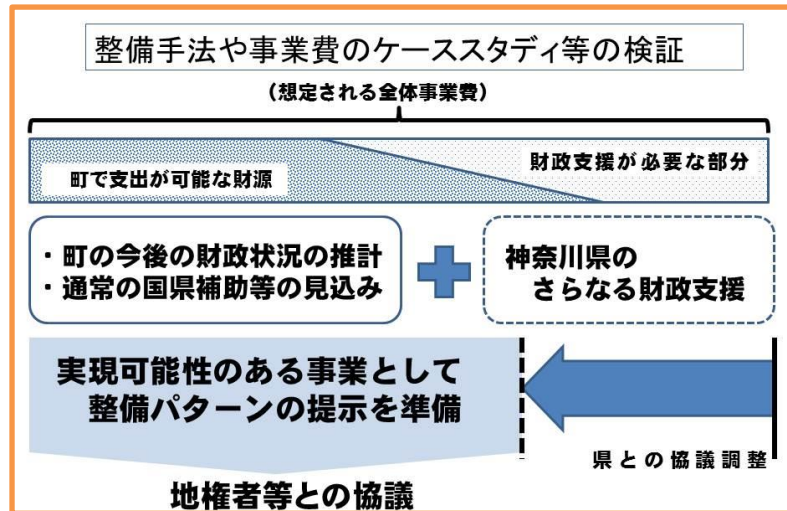
○新たな線引きが平成28年11月にスタートしました。

○神奈川県が行った今回の線引きでは、「交通施設の都市計画の決定方針」の中で、はじめて「JR東海道新幹線新駅北口及び南口の駅前広場については計画の具体化を図る」という文言が位置づけられました。

○また、倉見地区は「一般保留」として再び位置づけられました。これは前回の第6回線引き(平成22年3月～平成27年3月)と同様の位置づけで、引き続き、まちづくりの話し合いができる状況が整えられたということの意味しています。



～県との財源調整について～



○町では県と財源負担のあり方を話し合うために、考えられる事業手法で想定した事業費を試算し、町で実施できるのか、いくら財源が不足するのか、といった推計作業を行いました。また、財源が不足する場合には、県からの支援をいただけるのか、県と協議してまいりました。

○現段階では、**県から、広域的利用に供する施設（道路）等の整備費用への支援の可能性については示していただいたものの、事業の大半を占める「面整備」に**

ついては、「制度の範囲を超えた財政支援は困難」という見解が示されております。

○町として財源の見通しも立たないまま、現在の「新駅周辺整備検討区域」を具体化する説明をするのは無責任であるため、さらに**まちづくりエリアの絞り込みや、段階的な手続きなど、現行の補助制度で着手可能な事業の組み立てを検討する必要があります。**引き続き県と調整を重ねてまいりたいと考えています。

～JR東海への要望活動～

2つの組織により新駅設置要望を実施

○神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会の一員として毎年JR東海に要望

※（毎年5月、8月、11月に町長や副町長が出席）

○神奈川県鉄道輸送力増強促進会議（年1回）
→ JR東海から書面による回答

○県同盟会では、JR東海がリニア中央新幹線の名古屋開業年次に新幹線新駅が開業できるよう早期に検討してほしいと要望しています。

○今後もJR東海との意見交換の機会を重ね、互いの認識を深めてまいりたいと考えています。

神奈川県鉄道輸送力増強促進会議

平成28年度要望に対するJR東海の回答より

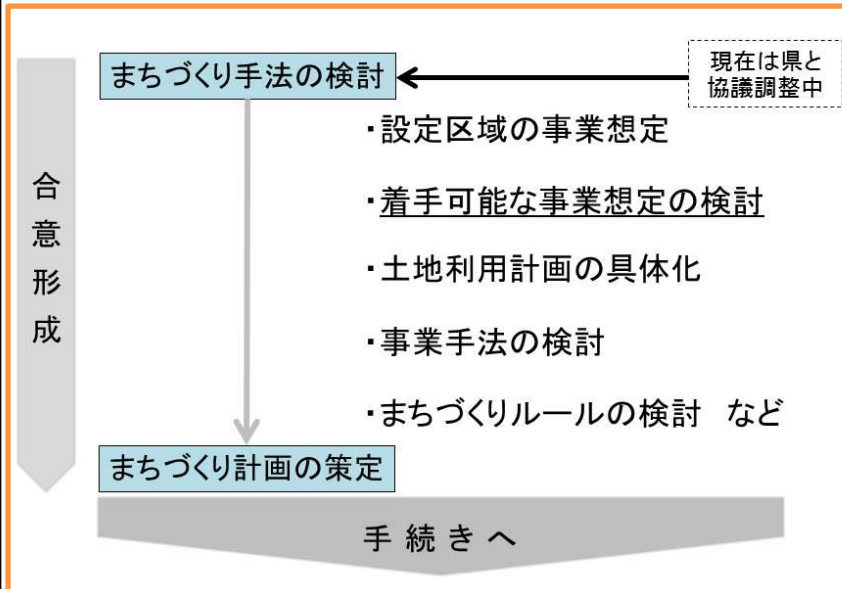
東海道新幹線への新駅の設置は、列車の到達時分の延伸やダイヤの構成に影響を与え、結果として多くのお客様の利便性を損ねることになります。したがって、現時点において、新駅の設置は極めて困難であります。

中央新幹線が開業し、東海道新幹線のダイヤ構成に余裕が生まれれば、新駅設置の余地が高まると考えておりますが、現在は、まだ平成26年10月の品川・名古屋間の工事実施計画の認可を受け、本格的な土木工事に着手した段階です。新横浜・小田原間の新駅につきましては、中央新幹線が開通してから、その先の問題であり、新駅設置の可否について検討できる段階ではありません。

一方、駅の設置の可否については当然のことながら、ご利用頂けるお客様の需要見込み、それを裏付ける周辺地区における都市形成の状況などを十分検証したうえで判断することとなります。

○神奈川県鉄道輸送力増強促進会議の要望に対する回答では、「新駅の設置の可否については利用者の需要見込みと、それを裏付ける周辺地区の都市形成などを検証して判断する」としてはいますが、「新駅はリニア中央新幹線が開通してからその先の問題であり、現在は可否を検討できる段階ではない」という見解が示されています。

今後の進め方について



○「**新駅周辺整備検討区域**」を**2027年のリニア中央新幹線名古屋開業に併せて完成させるまちづくりは財政的にも、期間的にもかなり困難な状況となっています。**

しかしながら、新駅開業時期までにすべてを完成しなくてはならないというわけでもありません。新駅が実現するまでに実施可能な事業案をつくりあげ、それをきっかけにまちづくりの裾野を広げられるような取り組みを考えながら県と相談していき

たいと考えています。

○具体的な計画案をお示しするには、まだまだ行政間で詰める必要がありますが、今後、早い時期に皆さまと具体的な話し合いができるよう努めてまいります。

※線引きとは

線引きはおおむね10年後の将来人口予測のもと、都市計画区域について「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針などを都市計画」に定めるとともに、無秩序な市街化を防止するため、都市計画区域を市街化区域と市街化調整区域に区分するもので、都市計画の根幹をなすものです。

これらの都市計画を見直すことを「線引き見直し」といい、神奈川県ではおおむね5年ごとに県内一斉で、この「線引き見直し」を行っています。

県央・湘南都市圏の整備、まちづくり（県からの報告）



○圏央道のうち、さがみ縦貫道路が平成27年3月に全線開通し、その後、埼玉県や茨城県の区間が全線開通したことで企業の立地や観光面でさまざまな効果が現れています。県としても、平成29年3月に完成した「戸田交差点の立体交差化」など、幹線道路の整備に取り組んでいます。

○平成28年4月20日に、国の交通政策審議会において、2030年を目標年次とする「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申が出されました。

相鉄いずみ野線の延伸については、前回の答申で「湘南台から相模線」と示されていた延伸区間が、今回の答申で、「湘南台から倉見まで」として明確に示されたことは大きな成果であると考えています。

当日の主なご意見

【ご意見】まちづくりは2027年に開業してから動くのか、その前から進めていくのか。JR東海が駅設置を決定する前に見切り発車で事業は行えるのか。

【町】まちづくりは新駅開業を見据えて取り組んでいます。JR東海の駅設置検討のタイミングとまちづくりのスケジュール感が合わずに手続きをすると土地利用規制等で地元の方々に迷惑がかかってしまいますが、まちづくりの準備は必要だと考えています。

【ご意見】JR東海がリニア中央新幹線の全線開業まで駅設置判断をしないという見方もあるのか。

【町】名古屋開業時、全線開業時のどちらとも見解を示していません。同盟会では名古屋開業時の新駅をJR東海に訴えています。

【ご意見】早くJR東海と事務レベルの話し合いに入ってほしい。

【町】現在は、ようやく地元の担当者がJR東海と面談ができたという段階です。今後、進捗を見ながらお会いする機会を重ねていきたいと思えます。

【ご意見】こういう大きな事業は国会議員の後押しがなければ進まない。

【町】県同盟会ではJR東海への要望と並行して国会議員への要望や国土交通省等、国の機関にも要望を行っています。

【ご意見】町の財政も苦しいと聞く。これだけの大規模事業を行うことで町民の福利厚生や教育などの財源が削られてしまわないか。

【町】この事業は、町民の行政サービスや社会保障などを削りながら行うものではありません。行政サービスを損なわずに着手可能なまちづくりが取り組めるようにさらに精査してまいります。

【ご意見】倉見にはどんな施設を誘致しようとしているのか。

【町】新駅周辺は、商業・業務系の土地利用を期待していますが、新駅の停車本数など駅の利用形態を考慮する必要があります。

【ご意見】取り組み方がうまくない。新駅を利用するであろう若い世代が参加できる仕組みが必要だ。

【まちづくりに関するご意見をお寄せ下さい】

まちづくりに関するご質問・ご意見等がございましたら、お気軽に下記までご連絡下さい。職員がご自宅にお伺いするなどし、説明をさせていただきます。

〒253-0196 神奈川県高座郡寒川町宮山165番地 寒川町 拠点づくり部 倉見拠点づくり課

TEL:0467-74-1111(内線741) FAX:0467-74-2833

HP :<http://www.town.samukawa.kanagawa.jp>

※ホームページ上の「メールフォームによるお問い合わせ」から、メールでのお問い合わせも可能です。